第４２回卒業証書授与式

□　平成３１年３月１日
　第４２回卒業証書授与式を行いました。
　多数のご来賓、保護者の方にご参列いただきました。ありがとうございました。
　２７５名の生徒が、校歌にある「紀淡のかなた拡がる世界に」漕ぎ出していくスタートです。

　卒業生代表　白波瀬 颯太君の答辞はすばらしかったです。紹介いたします。

答辞
　２０１９年、「平成」という元号も間もなく終わり、新たな時代へと進み始める今日、私たち４２回生は、卒業式を迎えます。ご来賓の皆様、保護者の皆様、校長先生をはじめ諸先生方、在校生の皆さん、多くの皆様の祝福を受け、いまこの場に立っていることを卒業生一同、心から感謝申し上げます。
　いま卒業に際し、心の中に西宮南高校の思い出が浮かんできます。そしてもうみんなで歌うのは、あと一度しかない「校歌」の歌詞の意味に改めて思いを馳せています。ご来賓の皆様や保護者の皆様もぜひ、歌詞カードをご覧ください。

　あかね　棚雲(たなぐも)　海原(うなばら)や　はなだにかすむ　山波の　この西宮　朝のかげ
　清らのこころ　清らの眼(まなこ)　紀淡のかなた　拡(ひろ)がる世界　小手(こて)をかざして今向かう
　胸張れ　われら　われらは要(かなめ)　智恵みつ南　智恵みつ南

　山と海に育まれたこの西宮の地に西宮南高校はあります。私たちは三年間、空の色や風の温度に季節の移ろいを感じながら、時には悩み事を抱えながら、また時には友達と笑いあいながら自転車で長い時間をかけてこの西宮の町を縦断してきました。
　朝の影とは「朝の光」のことを意味します。まだ朝も明けきらない暗いうちから家を出て、クラブ活動の早朝練習に取り組みました。朝日に照らされたグラウンドやテニスコート、体育館からは、皆さんのがんばる声が聞こえてきました。
　「清らのこころ　清らの眼」
　この三年間、私たちの心はいつも揺れ動いていました。友人関係に悩み、進路に悩み、行事のたびにこの「心」が試されました。三年生最後の文化祭では、全クラスが劇を行ったのですが、最初はどのクラスも心はバラバラで団結や結束はなかなか見られませんでした。しかしクラブ、の総体とクラスの練習を両立させるため遅くまで残ったり、学校の外で自主的に練習をしたり、少しずつ「心」が結びついていきました。そして、本番では、どのクラスも二日目に残るために必死に取り組みました。クラス全員で円陣を組み「心」が一つになる瞬間の何とも言えない高揚感とこれから劇に向かう緊張感は今でも忘れられません。
　行事を中心に「心」が一つになる。これがこの４２回生の特性でもありました。体育大会では、大縄跳びを跳ぶことに苦労し、昼休みも校舎のあちこちから練習する声が聞こえてきました。その声にお互いが刺激を受け、体育大会当日まで競い合っていました。歓喜の輪を作ったのは３年６組でしたが、どのクラスも「心」を揃えて声を出していました。
　フォークダンスの曲が流れてくると、「いよいよ最後なんだな」と感慨深く、いつまでもこの輪が続けばいいと思いました。
　私たちの３年間は、大きく広がる世界へとはばたく準備でもありました。校歌には「紀淡のかなた拡がる世界」とあります。修学旅行では私たちはまさにこの西宮を飛び出して、外に広がる世界を感じました。
　飛行機から今まで見たこともないような沖縄の青い海。激しい荒波をこえて向かった伊是名島。自分たちの世界を飛び出し飛び込んだ、「おじいおばあ」の家では、おいしい沖縄の料理と、家族のような笑顔が待っており、自ら飛び込めば、新しい世界が両手を広げて待っていてくれるということを教えてもらいました。しかし、「ひめゆりの塔」や「平和の礎」では、そんな柔和な沖縄の表情とは一変する、沖縄の歴史も学びました。私たちの前に広がっている世界には、優しさだけでなく、悲しみや厳しさも存在することを学びました。
　そんな世界に私たちは胸を張り歩みを進めなければなりません。その歩みは決して、自分ひとりの力だけで歩めるものではありません。
　先生方、私たち４２回生は、先生方に何度、叱られたことでしょう。どれほど迷惑をかけたことでしょう。私自身も何度も叱っていただきました。叱られても反抗する私たちをあきらめることなく何度も叱ってくれました。いつでも一番に私たちのことを思い先生方は行動してくれました。大きな行事のときは、いつも共に悩み、共に苦しんでくれました。そして、大きな成功や小さな成功に共に喜んでくれました。そんな先生方と３年間過ごすことができてとても幸せでした。本当にありがとうございました。
　一、二年生のみなさん、高校生活の三年間はあっという間に終わってしまうものです。辛いことや、逃げ出したくなることもあると思います。私たちもそうでした。しかし、来年、再来年のこの日に、西宮南高校で生活ができて良かったと思えるように一日一日を大切に過ごしてください。
　そして１８年間、いつの日も私たちを見守ってくれた、お父さん、お母さん、家族のみなさん、どんなにしんどくても私たちの生活のために働いてくれました。３年間、朝早く起きて文句も言わずお弁当を作ってくれました。今まで当たり前のように生活できていたのは全部あなた方のおかげです。いさかいや反抗もすべて受け止めてくれました。私たちはもう１８歳です。こんなに大きくなりました。１８年間大切に育ててくれてありがとうございました。私たちは今、とても幸せです。これからは成人としてみなさんを支えていきます。様々なことで迷惑をかけると思いますが、これからもよろしくお願いします。
　そして最後に３年間、苦楽を共にした４２回生のみなさん。今日、別れの日が来ました。様々な思い出がよみがえります。はしゃいだり、喧嘩をしたり、行事の時、みんなで頑張り盛り上がったこと。私は、そんなみんなの姿を見て、何度も元気をもらいました。二年生の定期戦のあと、校歌の声が出ていなくて、廊下で全員で歌ったとき、「みんなで一回で決めよう」と声をかけると、今までで最高の校歌を歌ってくれました。とても嬉しく、私にとっての自信になりました。教室のドアを開けると、いつもそこにあったみんなの笑顔に支えられていました。今、受験で悩んだり、不安になったりしている人もいると思います。これからの人生で悩み戸惑うこともあると思います。しかし、そんな時こそ「胸張れ　われら」という言葉を思い出してください。自分が歩んできた後に道ができます。その道を胸を張って進んでいきましょう。
　最後になりましたが、今一度御礼申し上げます。多数のご来賓の方々、保護者の皆様、お忙しい中、ご臨席いただき誠にありがとうございます。これからも母校のますますの発展をお祈りいたしまして答辞とさせていただきます。

平成三十一年三月一日
兵庫県立西宮南高等学校　第四十二回生卒業生代表
白波瀬　颯太

　卒業生が退場するとき、各クラスそれぞれの思いを声をそろえて言ってくれました。お父さんお母さんへの感謝、担任への感謝の言葉が印象的でした。感動しました。